

Exhibition Related Program

Round Tables among Japan, China, Korea

関連プログラム
日本・中国・韓国ラウンドテーブル

PUBLIC/PRIVATE SPACE

“Identity, everyday life and the right to the city in the East-Asian Metropolis”

March 4 (fri) 19:00-21:30

Japanese - English simultaneous translation available
Venue : Embassy of Spain, Auditorium, Admission Free

パブリック/プライベートスペース：アイデンティティ、日常生活、都市への権利

北京、ソウル、東京のような大都市で公共空間がどのように形成されてきたのか、都市研究者や建築史家とともに考察します。

日時：3月4日(金) 19:00-21:30

会場：スペイン大使館 東京都港区六本木1-3-29
定員100名 参加費無料(日/英同時通訳)

[モデレーター]ホルヘ・アルマザン(建築家、慶應義塾大学専任講師)

[スピーカー]陣内秀信(法政大学教授、建築史・都市史専門)、チャン・ユー(シンガポール国立大学専任講師、都市史専門)、キム・ソンホン(ソウル大学教授、建築・都市学専門、2016年ヴェネチア建築ビエンナーレ、韓国パビリオンキュレーター)

CENSORSHIP

March 20 (sun) 16:00-19:00

Japanese - English consecutive translation available
Venue : 3331 Arts Chiyoda, Admission ¥1,500

文化検閲

国や自治体による検閲や圧力、美術館、出版社、主催者、プロデューサー、作者自身による自己規制など、3か国の現状を知り、政治、社会、文化のありようを読みとる試みです。表現規制された経験のある表現者の参加を募り、表現の自由について語り合います。

日時：3月20日(日) 16:00-19:00

会場：3331 Arts Chiyoda
定員100名 参加費1,500円(日/英逐次通訳)

[モデレーター]小崎哲哉(『REALKYOTO』編集長、『百年の愚行』編著者)

[スピーカー]片岡真実(森美術館チーフキュレーター)、ふるまいよしこ(フリーランスライター、『中国新声代』著者)、岡本有佳(編集者・文化企画/風工房主宰、表現の不自由展実行委員会共同代表)



CONSTRUCTION of FEAR

March 26 (sat) 13:00-16:00

Japanese - English consecutive translation available
Venue : 3331 Arts Chiyoda, Admission ¥1,500

恐怖のなりたち

近くて遠い隣人と意思疎通が上手くできないのはなぜか? 互いに持つ恐怖、共通の対外的な恐怖、メディアによって作られる恐怖について語り合います。

日時：3月26日(土) 13:00-16:00

会場：3331 Arts Chiyoda
定員70名 参加費1,500円(日/英逐次通訳)

[モデレーター]佐々木俊尚(評論家、ジャーナリスト、『21世紀の自由論:「優しいリアリズム」の時代』、『レイヤー化する世界ーテクノロジーとの共犯関係が始まる』著者)

[スピーカー]麻生晴一郎(ルポライター、NPO AsiaCommons 主宰、『中国人は日本人を本当はどう見ているのか?』『北京芸術村:抵抗と自由の日々』著者)ほか

*「恐怖のなりたち」のスピーカーは、本展特設サイトam.3331.jpにて発表します。

[参加申し込み] ①日にち ②テーマ ③お名前 ④e-mail ⑤当日の連絡先をお書き添えの上、メールにて、3331 Arts Chiyoda にお申し込みください。

Reservation required

(with your name, e-mail, mobile phone number)

email: ws1@3331.jp



主催 Organized by



3331 ARTS CHYODA

助成 Supported by



平成27年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

AC/E

ACCIÓN CULTURAL
ESPAÑOLA



協賛 Sponsored by

安井建築設計事務所
YASUI ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

機材協力 Equipment



ラウンドテーブル記録集助成 Transcription and publication of the round tables Supported by

institut
ramon llull

カタルーニャの言語と文化

協力 Corporation with

BankART1929/Tokyo Wonder Site/
Ministry of Education, Culture, Sports,
Science and Technology Fostering Edu-
cation Project, INTERNATIONAL JOINT
PROJECT, Tokyo University of the Arts
Global Art Joint Curriculum 2015

お問い合わせ
アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-11-14
Tel/03-6803-2441(代)
Email/info@3331.jp
http://www.3331.jp

Exhibition

アジアン・プロトコル

ASIAN PROTOCOLS

日本・中国・韓国の類似点、相違点
そして緊張

SIMILARITIES, DIFFERENCES AND CONFLICT
JAPAN, CHINA, KOREA

MUNTADAS

ムンタダス展

2016年3月20日(日) → 4月17日(日)

March 20 (Sun) → April 17 (Sun)

無休 12:00-19:00 Open every day

最終入場時間 Last entrance 18:30

3331 Arts Chiyoda

am.3331.jp

Exhibited works 展示作品

1. Asian Protocols: Cartographies 2014-2016

《アジア・プロトコル:カルトグラフィー(地図作製)》

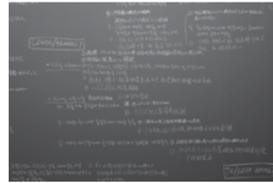
アーティストによる43個の英語のキーワード(「外交」「政治」「秩序」「集会」「検閲」「契約」「宗教」「建築」「スポーツ」など)をもとに、それぞれに対応するイメージを計400点、3か国のリサーチャーとともに選びました。会場では、アーティストの解釈によって、そのイメージのマッピングを行ないます。3か国の類似点・相違点が浮かび上がる、巨大な地図が一望できることでしょう。



2. Dialog: Redefining Asian Protocols 2015-2016

《ダイアログ:アジア・プロトコルの再定義》

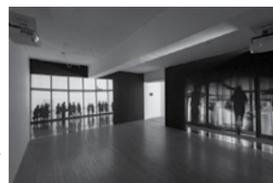
「家族・結婚」「ジェンダー」「人権」「ビジネス」「領土問題」「ファッション、漫画、ヒップホップ」「学歴/競争社会」など、アーティストが提示した40個のトピックスに対して、3か国のそれぞれのリサーチャーが再定義を行ない回答します。トピックスと回答は、会場の4面の大黒板に3か国語で記されます。回答を並べて見ることで、来場者のそれぞれが自らの答えを捜すことになるでしょう。



3. Three Projections 2004-2013

《3つのプロジェクション》

1995年に始まった40点を越える「オン・トランスレーション(翻訳/解釈について)」シリーズの一部の映像をプロジェクションします。「トランスレーション」とは、言語から言語への翻訳という文字通りの意味ではなく、あるイメージの理解によって生じる様々な意味や前後関係、さらにはあるものがある文化から別の文化へと、どのように翻訳され、理解され、解釈されるかというプロセスを意味しています。3つのイメージは、パブリック・スペースを行き来する間に、大きな窓から外を眺める人々、携帯電話で話す人々、回転ドアを通る人々を写したもので、パブリックな空間にいなから、自らのプライベート空間をつくってしまう現代人の状況や心情を捉えています。



4. Public/ Private Space 2014-2016

《パブリック/プライベートスペース》

東京、北京、ソウルという3都市のパブリック空間とプライベート空間の研究として、フィールドワークを行ない収集・分析したデータベースを公開します。インスタレーションは、「ワークステーション」として機能します。



5. On Translation: Pills 2006-2014

《オン・トランスレーション:ピル(薬)》

《アジア・プロトコル》の、43個のキーワードからなるプロトコルのそれぞれに「適応できる効果がある」薬をアーティストが処方しました。4か国語(日本語、中国語、韓国語、および英語)のラベルをつけた43本の薬瓶は、3つの棚に展示されます。アーティストのユーモアの感じられる作品でもあります。



6. Asian Protocols: Fragments 2014

《アジア・プロトコル:フラグメンツ(断片)》

アーティスト自身が、日本、韓国、中国以外のコミュニティ(サンパウロ、パリ、モスクワ、バルセロナ、ニューヨーク)から持ちかえたもの、たとえば、日本語、中国語、韓国語の単語学習カードや、伝統儀式や国技、軍事力などを掲載した雑誌、漫画、地図など、「プロトコルの断片」とも言えるオブジェ類をテーブル状のガラスケースに陳列し、母国から離れた人々が、どこの国でどのような解釈を行なっているかに思いを馳せます。



7. On Translation: Abroad 2016

《オン・トランスレーション:アブロード(海外)》

東京の新大久保や北京(望京/ワンジン)の韓国人街、横浜やソウル(インチョン)の中華街、北京とソウルの日本人コミュニティエリアなど、母国以外の国に居住する人々によってつくられた3種類のエスニック・タウンの写真をコラージュします。



8. Asian Protocols: Textbook 2016-

《アジア・プロトコル:テキストブック》

中学校と高校の現代の歴史教科書に使用されているイメージから、日本、中国、韓国の歴史教育の比較を試みます。



Asian Protocols アジアン・プロトコル

展覧会タイトルの「アジア・プロトコル」とは、私たちの社会と生活の公私にわたるさまざまな「約束ごと」のことです。多様な局面で使われるこの言葉は、外交上の儀礼や協定・議定書、あるいは社会一般の慣習や規則、科学・芸術上の法則や方式、コンピュータ通信の手順・規約などを意味します。これらのプロトコルは、多種多様な手続きを含み、私たちの社会生活を、ある力をもって規定し、統制し、いずれにせよそこに影響を及ぼすのだと、ムンタダスは指摘しています。

本展は、日本、中国、韓国の「プロトコル」をリサーチし、各地で収集した膨大なイメージを用いたインスタレーションを行なうことにより、遠くて近い国であるこれら3か国の類似点と相違点、そして緊張を、視覚的に浮き上がらせる試みです。一昨年、ソウルのトータル現代美術館での展覧会を皮切りに、今回、2016年3月に東京展を開催し、近い未来に北京での展示を予定しています。展覧会は、各地のリサーチャーとともに協働しながら、発展していきます。

展覧会というひとつの場は、ここでは「プラットフォーム」として位置づけられ、一般市民や学生、教師、社会科学の専門家など、さまざまな人々に開かれた議論の場となります。アーティストが提示する「プロトコル」を意識することによって、観客である私たちは、普段は見過ごしがちなこと、あるいは話し合いを避けてしまってきたことを改めて心にとどめ、過去と現在を再認識し、未来について語り始めるのです。

本展企画担当 関ひろ子

The exhibition title "Asian Protocols" refers to various conventions related to certain official and private matters either in society generally or in people's personal lives. When used in different situations, the word "protocol" can have a variety of meanings, such as a diplomatic procedure, an agreement and/or a document stipulating such an agreement, a system of customs and rules operating in society, the rules and methods regulating a scientific or artistic field, or the procedural methods and rules governing computer-based telecommunications, etc. These protocols encompass a great variety of procedures, and according to Muntadas, they have the power to define and control society and to influence it in many kinds of ways.

This exhibition is an attempt to reveal visually some of the similarities and differences as well as the conflicts that exist between three countries that are located so near to and yet so far away from each other—namely Japan, China and Korea—by researching the protocols operating in each of these countries and by creating installation works as a means of assembling images collected in various places within these countries. The first exhibition of this series was held at the Total Museum of Contemporary Art in Seoul in 2014, and following the opening of the present exhibition in Tokyo in March 2016, a similar exhibition will be held in Beijing in the near future. These exhibitions are being developed through collaboration with various researchers in each country.

Each exhibition venue is regarded as a platform that can serve as a forum for discussion, including by members of the general public, students, teachers, and specialists in the social sciences. By making us conscious of the diverse protocols suggested by the artist, the exhibition can provide us with a renewed awareness of matters we normally tend to overlook or avoid discussing, with the result that we will once again recognize the past and present and begin talking about the future.

Hiroko Seki

Access アクセス



Artist's profile アーティスト紹介

1942年、バルセロナ生まれ。1971年以来、ニューヨークに在住。コンセプチュアル・アートおよびメディア・アートの黎明期から活躍しているアーティストの一人である。

多くの国際的な研究機関で客員教授を務め、主な機関には、パリ国立美術学校、サンパウロ大学などがある。1990年から2014年までは、マサチューセッツ工科大学(MIT)建築学部の客員教授を務め、現在はヴェネツィア建築大学(IUAV)で教鞭をとる。

40年にわたる長いキャリアのなかで、《メディア・ランドスケープ》(1977年)や、文化検閲を扱ったインターネット・プロジェクト《ファイル・ルーム》(1994年)など、多くの作品を構想・制作してきた。この20年は、《オン・トランスレーション》シリーズ(1995年-)に継続して取り組み、現在は《アジア・プロトコル》のプロジェクトを展開中。

こうした作品を通じ、社会的な枠組みの中でのパブリックとプライベートなスペースの関係といったように、社会や政治、コミュニケーションに関わる問題に取り組んでいる。また、人々の思考をときに検閲し、ときに宣伝するために使われることもある情報伝達の経路や手法についての調査研究も行なっている。プロジェクトの提示手法は、写真、ビデオ、出版物、インターネット、インスタレーション、都市空間への介入など、あらゆるメディアに及ぶ。

世界各地の多くの美術館で作品展示を行なっており、主な館には、ニューヨーク近代美術館、カリフォルニアのパーレー美術館、モンリオール現代美術館、マドリッドのレイナ・ソフィア国立アートセンター、プエノスアイレス近代美術館などがある。また、カッセルのドクメンタVIおよびX、ホイットニー・ビエンナーレ、第51回ヴェネツィア・ビエンナーレのほか、サンパウロやリヨン、台北、光州、ハバナなどのビエンナーレにも出品している。

日本での作品展示としては、「NTT ICC'95 on the Web」(スパイラル・ギャラリー)や、「枠組みの間—フォーラム」(ヨコハマ・ポートサイドギャラリー)、「秋葉原TV」(コマンドN)、「Connecting World」(NTT/ICC)などがある。2015年には、BankArt1929とトーキョーワンダーサイトのレジデンス・プログラムに参加し、国内でのリサーチを実施した。

Antoni Muntadas was born in Barcelona in 1942. Since 1971, he has lived in New York. He is one of the early conceptual and media artists.

Muntadas has been a visiting professor in many international institutions: Ecole des Beaux-Arts in Paris, France, the USP in Sao Paulo, Brazil, and at the School of Architecture at MIT in Cambridge from 1990 to 2014. He now teaches at the IUAV in Venice, Italy.

In his 40 year long career he created and produced many works under the term "Media landscape"(1977), an Internet project about cultural censorship "The File Room" (1994). He also has been working for 20 years on the series "On Translation" (1995-) and the on-going project "Asian Protocols".

In his work he addresses social, political and communication issues such as the relationship between public and private space within social frameworks, and investigates channels of information and the ways they may be used to censor or promulgate ideas. His projects have been presented in all media including photography, video, publications, the Internet, installations and urban interventions.

His works have been exhibited in international museums: The Museum of Modern Art in N.Y., the Berkeley Art Museum, C.A., the Musée d'art contemporain de Montréal, the Museo Nacional Centro de Arte Reina Sofía in Madrid, the Museo de Arte Moderno in Buenos Aires, and more. He has presented works at Documenta VI and X, Kassel, the Whitney Biennial of American Art, the 51st Venice Biennial, and those in São Paulo, Lyon, Taipei, Gwangju and Havana.

His work has also been exhibited in Japan: "NTT ICC'95 on the Web" at Spiral Gallery, "Between The Frames: The Forum" at Yokohama Portside Gallery, "akihabara TV" at command N, "Connecting World" at NTT/ICC. He conducted research in residency programs at BankART1929 and Tokyo Wonder Site in 2015.

Admission Fee 入場料

パスポート制/ご本人に限り会期中何度でも入場可(身分証明書の提示要)。Passport tickets allow unlimited entry to the named holder. ID required.

一般 General: **¥800**

大学生・専門学校生・65歳以上 Students / Age 65 and up: **¥700**

*千代田区民、高校生以下、障がい者およびその同伴者 無料
Free admission for Chiyoda Ward citizens, persons with disabilities and their companions.

*ラウンドテーブルは別途参加料が必要です。
Extra charge for the round table event at 3331 Arts Chiyoda.

会場住所: 東京都千代田区外神田6-11-14